短信
菊地真/アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル 15(2023)46-49

エジプトにおける古典教材を用いた日本語作文指導
―エジプト人学習者の傾向を踏まえて―

菊地 真

要旨

最近、海外での日本語教育で日本古典を取り入れる報告を多く目にするようになった。稿者は 2022 年度前期、エジプト国立アインシャムス大学 4 年生を対象に日本古典を教材に用いた授業を実践した。今回は、エジプト人学習者の特質を見極め、それを指導に反映させる工夫を報告し、その成果として書かれた学生作文を紹介する。

キーワード

日本語作文、日本古典、エジプト、大学教育

1. はじめに

1.1 これまでの経緯

近年、海外の日本語教育において、日本古典を取り入れることで学習者の日本語能力向上をはかる実践報告が多く見受けられる(1)。稿者も中国及びエジプトの国立大学大学院・学部高学年の日本語指導にあたり、古典をいかに活かすかを工夫し続けている。ここ数年の新型コロナウィルスまん延防止策の為に日本留学を見合わせられた影響で、エジプト人学習者は日本での文章表現を学習した経験がない。クラスに留学経験者が皆無なため、例年以上に、彼らの日本語作文における欠点が顕著となった。そこで今回はまずエジプト人学習者に多く見られる作文傾向から報告し、それに続き、彼らの作文例を紹介する。

1.2 エジプト人学習者の傾向

どの文化の学習者にも、学習者自身が気づかない特徴がある。エジプト人学習者は、四技能中、「書く」ことが最も苦手な傾向がある。基本的にエジプト人は四技能中、「話す」を優先する。彼らは「話す」→「聞く」→「読む」→「書く」順に習得したがる。たとえば日本語を流暢に話せるエジプト人学習者でも、それに見合った「聞く」技能を習得している保証はない。彼らに少し複雑な日本語の話をすると半分も聞き取れていないことが頻繁にある。彼らの読み取り能力はさらに低く、書き取り能力はそれ以下である。それゆえ、日本人教員が、彼らに作文指導をする際、彼らの話す能力から 2-3 段階下げた水準から指導しないと失敗する。エジプト人は、外国語に限らず、自国語でも書く能力を習得したがらないと聞く。現在、エジプトの普通教育で、作文を教えられる教師が少ないと聞く。作文を書けない教師に作文指導はできないからだ。そこでますます作文を学べない児童・生徒がふえる。この悪循環で、ますます普通教育で作文を習得できなくなる。要するに、エジプト人学習者の多くは、外国語を学ぶ以前に、作文学習の体験に恵まれていない。それでも普通教育で作文を教わることのできた学習者もいる。彼らの多くは一流大学に進学するが、その教育内容を聞くと、作文でありながら「文を作る」のではなく、箇条

書きを並べたものを「作文」と教わってきたという。要するに箇条書きのメモを、作文そのものと認識させられている。日本ではそのようなメモは作文の前準備でしかないが、エジプトでは作文そのものと見なされている。このためエジプト人学部生の多くは、論点を提示し、それに沿い、根拠を示し論証して結論を導く作文、つまり「論理的な作文」の概念がない。あるいはアラビア語では「レポート」と「論文」が同じ単語であることも「箇条書きの羅列を作文と誤解する」傾向の根底にあるのかもしれない。

2. 2022 年度の実践例

2.1 2022 年度の授業の改善点

2022 年前期（9-12 月）、エジプト国立アインシャムス大学言語学部日本語学科において、「日本語作文」の授業を実施した。対象は学部 4 年生 30 人で、期間は 10 月 1 日から 12 月 24 日までの毎週土曜日 14 時から 16 時までである。教材に菊地（2020b）の第一部古典読解篇と、第二部文法・語彙篇を用いた[(2)]。授業前半 1 時間で第一部を、後半 1 時間で第二部を講義した。第一部の授業では課題文の概説、作文課題の説明に続き、課題を解くためのヒントとして課題文を講読・解説する。授業に先立ち、前回作文の講評を行う。今期は、「箇条書きを並べただけでは作文でない」ことを学習者に理解させることに時間を要した。これは前記の作文への「エジプト的固定概念」にとらわれていることに加え、クラスに日本留学経験者が皆無ゆえ、日本式の作文を同級生から教わることができないことにもよる。ビフォアコロナ時代ならば、日本留学帰りの仲間から、作文の書き方も学べたため、「箇条書き羅列の『作文』」はセメスターの早い時期に是正された。次いで「比較によって思考を深める」ことを指導した。日本とエジプトの文化比較であれば「違って当然」で、相違点は論ずる価値は低く、類似点を主に論じることを指導した。比較で思考を深めることは、古典を教材にすることで、学習者に比較的容易に習得させられる[(3)]。

2.2 エジプト国立アインシャムス大学言語学部日本語学科 4 年生の作文紹介

今期、提出させた作文総計約 180 例中、優秀な 3 例を紹介する[(4)]。

資料 1　学生の作文 1『学問のすすめ』

福沢諭吉は（中略）「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という。自由・独立・平等、日本人が知らなかった三つの価値観を紹介するため、『学問のすすめ』を作った。なお、新時代における身分は、生まれではなく、学問を通じた個人の見識により、決定されると述べた。また、明治維新になって欧米諸国の女性解放思想を日本に紹介した。「人倫の大本は夫婦なり」と言い、一夫多妻や妾をもつことを非難し、女性にも自由を与えなければならないと述べた。女も男も同じ人間であるため、同様の教育を受ける権利があると表明した。（中略）『タヒリルアルマルア』は 1899 年、「カセム・アミーン」によって書かれた作品である。カセム・アミーン（1863―1908 年）は、クルド人の父とエジプト人の母の間に生まれ、エジプトの裕福なエリートの中で生活を送った。カセム・アミーンは、エジプトの法学者であり、エジプト国民運動とカイロ大学の創設者の一人である。歴史的にアラブ世界の「最初のフェミニスト」の一人として見ら

れている。「成功するように育ててくれる母親がいなければ、成功する男性になることは不可能だ」という。カセム・アミーンは、エジプトでの女性の教育と雇用の状態を批判した。なぜなら、カセム・アミーンの時代では、 ほとんどの父親は娘を教育したり、家の外で働かせたりすることなどを拒否したからだ。そのため、『タヒリルアルマルア』を書いたのである。本の最後で、「盲目的に習慣にこだわるのではなく、論理、精査、研究に頼るべきだ」と表明した。

この作文にはまだ、箇条書きにしたメモを結びつけた痕跡が見られるものの、論理的に全体をまとめている。『学問のすすめ』と『タヒリルアルマルア』の印象的な一文を引用し、穏当にコメントしたのは評価できる。古典作品は印象的な語句を見つけやすい。

資料 2　学生の作文 2『奥の細道』

『奥の細道』は、江戸中期の俳諧紀行である。（中略）芭蕉にとって『奥の細道』の旅は、歌枕をめぐりながら古人と心を重ね合わせ、俳諧を和歌や連歌と同等の格調高い文芸に位置づけてみたいという意識を強く持った旅であった。芭蕉は、旅人の河合曾良とともに江戸を出発し、内陸の奥地へと向かったが、その動機は「自分の芸を磨く」ために、昔の歌人たちが詠んだ場所を見たいという思いからであった。 具体的には、芭蕉が最高の歌人として賞賛した西行に倣い、西行の歌に詠まれた場所をすべて訪れることを目指した。（中略）この詩的な日記は、散文と俳句を組み合わせた俳文と呼ばれる形式である。孔子、西行、杜甫、古代中国の詩、そして平家物語に至るまで、多くの引用がなされている。このように、さまざまな要素が微妙なバランスを保ちながら、力強い文章に仕上がっている。芭蕉の旅は、旅先での詩的なエッセンスを生き生きと伝えている。日光、白河の関、松島、平泉、酒田、喜佐方、越中などである。（中略）芭蕉といえば、芭蕉俳論を知る重要な資料なのは向井去来著の『去来抄』という作品である。四巻でできており、1775 年刊された。芭蕉と門人たちの句評・俳諧本質論・俳諧作法などを「先師評」「同門評」「故実」「修行」の四分に分けて記す。（後略）

この作文も調べた項目を箇条書きしたメモをまとめたような文から脱却しきれていないが、後半に『去来抄』を紹介し、「芭蕉俳論」というキーワードを見つけ出し、まとめあげたことを評価する。古典は本質的にキーワードを見つけ出しやすく、読む者にそれをめぐり考察することをうながす性格がある。

資料 3　学生の作文 3『日本永代蔵』

『都鄙問答』は江戸時代中期に成立した心学運動の経典というべき書である。（中略）封建社会の儒教の倫理に沿って、職業としての各職業の社会的意義を考慮し、経済学と倫理の調和を説き、商人における流通の役割の価値を見出し、利益追求の正当性を強調する。 序論として、第 1 巻では、教養を高めようとする座学よりも、自分の本質を知り、訓練や実践による経験に裏打ちされたものの方が、価値があると主張し、さらに、商人には学問が必要であると主張している。教育を受けて正当な利益を得ること

は、武士の給料と同じで当然でありとする考えは秩序や階級を超え、やがて「心理」として武士に受け入れられた。 本書は一問一答形式で生産と流通の社会的役割を見極め、利益追求の正当性を唱えた。（中略）彼は商人を肯定的に評価した。『日本永代蔵』は（中略）日本小説史上、初めて本格的に経済小説を扱った作品と位置づけられる。この作品は、町民の価値観を積極的に表現し、お金をテーマに展開している。商人が知恵と倹約によってどのように裕福になったかの物語を収集し、お金の獲得は神の恵みや運ではなく、人の知性に依存していると主張している。著者はまた、金持ちになるための正当な方法だけでなく、いくつかの不正なトリックも賢明な行動と見なし、道徳的な問題についてはほとんど考えていない。興味深い実用的な、都市生活者の経済学だ。したがって、2つの作品は商業と利益の方法に関係しているが、手段が異なっている。『都鄙問答』では、倫理を主に、商人に道徳を正しく学び、遵守するように勧める。しかし、『日本永代蔵』は、違法で不道徳な収入方法も使用することに寛大である。

この作文も前半は調べたことの箇条書きを寄せ集めたようになっているが、「道徳的な問題」をめぐって『日本永代蔵』と『都鄙問答』を比較しまとめ上げている。古典には時代を越えて通ずる明確な論旨があるゆえ、読者にその論旨を考えさせることを促す。

3. むすび

今回は「箇条書きを並べたものが作文」というエジプト人学習者の固定観念をいかに是正していったかを中心に、作文成果を報告した。箇条書きを並べた解説文から、論理的な作文にまで進歩させられたのは、やはり古典教材の特性によるものであった。

（菊地真きくちまこと・エジプト国立アインシャムス大学・vakeneco28@gmail.com）

注

1. 菊地（2019）、菊地（2020a）、菊地（2021a）、菊地（2021b）、菊地（2022）
2. 本書の詳細は菊地（2020b）を、概要は菊地（2021b）を参照のこと
3. 菊地（2021b）、菊地（2022）
4. 作文を本誌に掲載することは、本人たちの了承を得ている

参考文献

菊地真（2019）「中国の大学における日本古典教育―大学専攻日本語 8 級試験受験者のニーズに応えた教材開発―」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』11，73-80.

菊地真（2020a）「古典教育と作文能力―中国学生の日本古典を題材とした作文分析を通じて―」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』12，45-53.

菊地真（2020b）『日本語学習者のための日本古典入門』学術研究出版

菊地真（2021a）「古典教育の現代的意義―不易流行―」『AJALT』44，26-29.

菊地真（2021b）「中東の大学におけるリベラルアーツとしての古典教材を用いた教育実践」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』13，10-18.

菊地真（2022）「古典は日本語作文教材に有効か―海外で「多読」を促す―」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』14，52-55.